

戦争と核兵器に対して

岐阜市立境川中学校 3年

楳田 紗希

第二次世界大戦の末期に広島・長崎に落とされた原子爆弾。これによって日本は多くの命と物を失いました。

世界に目を向ければ、未だ「戦争」はあちらこちらで起きています。つまり、この世界は平和ではないと言えます。敗戦国である日本は多大な犠牲が出たため、若者も日本の歴史の中の出来事としてある程度の知識は持っているものの、私たちは戦争の怖さを知らずに生きています。

広島・長崎の惨状は世界に知れ渡り、人類はその恐ろしさを知っているはずなのに、その後もさらに核兵器の開発や製造は続けられています。広島・長崎に投下された爆弾の三千倍もの威力のあるものから、投下しやすい小型のものまで、今地球上には一万五千基もの核爆弾が存在しています。

もしそれらが使用されれば、必ず人類に甚大な被害が出ます。それを知っているながら、核保有国は脅しの道具に核を使います。どれだけの尊い命がなくなるかを気にしていないのでしょうか。

多くの人が切実な思いで核廃絶を叫んでいるのに、一向に格はなりません。このような長い時間を経てなお、なぜなくなるのか、と思っているのは私だけでしょうか。

核兵器の恐ろしさを知る人たちが語り続けることで、私たちはより現実感を持ってその悲惨さを知ることができています。しかし、時は残酷にも流れ、体験者が語ることも限界を迎えつつあります。現に、戦争体験者が減ることで戦争について語る人が減り、若者が戦争について理解する機会が失われているとよく報道されています。

「戦争は恐ろしい。してはいけない。」「核兵器は危ない。作ってはいけない。」第二次世界大戦を経験した世界はそう悟ったはずですが、しかし、人類はこの歴史に学ばず、その恐ろしさを忘れてしまったようです。このままでは、また大きな戦争が起き、核兵器が使用されるようなことが繰り返されてしまうかもしれません。

では、それを止めるには、どうしたら良いのでしょうか。人の命は無限ではないので体験者にずっと生きてもらうわけにもいきません。戦争を知らない私たち若者には何もできないのでしょうか。

私はこの文章を書くにあたり、今までの戦争や核兵器に関わる話の内容を思い返したり、インターネットで調べたりしました。そこで今回私が考えたのは、「なぜ人間は争うのか」ということです。人々の争いが始まったのは、日本では弥生時代あたりです。自分たちの食糧や水を守ったり他の村から奪ったりするために村同士の争いが起きました。自分が生きるために、人は争いました。戦国時代には、多くの武将たちが豊かな土地を我が物にしようとして戦いました。自分が欲しいから争いました。みなさんは、兄弟喧嘩をしますか？私には弟が二人いますが、よく喧嘩をしています。理由は癪に障っただとか、物を取られたなどです。ここまで考えて私は結論を出しました。人間は自分の欲を満たす1つの手段として争うのだと。与えられなかったから奪う、負かしたいから負かす。しかし、欲しいから奪う、嫌いだから殺すのですか？考える生き物として、その争いは正しいと言えるのでしょうか。これまで過ちを犯してきて、その愚かさを知っているのだから、もうそのようなことをしなくてもいい方法を私たちは知っています。

私は戦争で人が人と殺すのを見たくないです。自分もそんなことに加担したくありません。「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という言葉がありますが、戦争や核兵器の恐ろしさは決して忘れてはいけないことです。

私は私たちができることが必ずあると信じています。まずは、何があったのか知ること。無知ほど罪なものはありません。戦争の怖さを自分の身に起き得ることとして知っていれば何をすべき考えられます。新聞、テレビなどの従来からある媒体に加えて、インターネットも使えるので、いくらでも知識は広げられます。ほんの少し手を伸ばせば、すぐそこに知るべきことが横たわっています。

そして、知識を蓄えたら、声を上げましょう。この少年の主張のような場でも、SNSでも、ブログでも、将来、政治家になってもいいのです。歴史に学んだこと、そこから考えたことをたくさんの人に知らせましょう。人の流れを止められる強さを持ちましょう。次の世代を担うのは私たちです。自分たちが人間らしく幸せに生きるために行動するのは私達です。そしてその行動が何人もの人を救います。体験者がいなくなっても、無自覚に戦争を受け入れてしまう人が増えても、私は決して忘れることなく、人々に訴え続けます。

もし、戦争について知る機会があって、何か思うところがあったなら、その気持ちを大切にしてください。そして、行動してください。私たち若者の力は大きく、強いのですから。